

0502 1

軍機

海軍武備調査委員より

一水戦機密第四號二六 (25)

自昭和十七年三月一日
至昭和十七年三月三十一日

四月二十日送付



紙数八十四枚



第一水雷戦隊戦時日誌

(作戦及一般部)

第一水雷戦隊司令部

目次

- 一、經過
- 二、人員、現狀
- 三、令達報告等
- 四、參考
- 五、麾下艦船部隊行動
作戰經過概要

(目次終)

自昭和十七年三月一日
至昭和十七年三月三十一日
第水雷戦隊戦時日志

一、概況

一般情勢及敵軍情勢

(四)

機密機動部隊命令作第二七號、第三一號、通

(一) 任務編制配備

(一) 編制

(一) 印度洋方面作戰(第二次機動戰)

第一兵力部署

區分指揮官	兵力
警戒隊 第水雷戦隊司令官	何武隈 第十七驅逐隊 第十八驅逐隊 一小隊

警戒隊 第1次機動隊司令官	區分	第2兵力部署ニ於テハ第十七驅逐隊ハ別動隊トシテ第2航空戦隊司令官指揮下ニ入ル	
	指揮官	(第2次機動隊)	
阿武隈 第十七驅逐隊 第十八驅逐隊 第四驅逐隊ニ小队 秋雲	兵力	第十七驅逐隊ニ小队 第二十七驅逐隊ニ小队 第十五驅逐隊ニ小队 (自三月六日 至三月十七日)	第四驅逐隊ニ小队

(一) 任務

(1) 印度洋方面作戦 (第二次機動作戦)

警戒艦隊輸送船団攻撃

(2) 警戒艦隊輸送船団攻撃 (第三次機動作戦)

警戒艦隊攻撃

(三) 配備

三月一日

三月四日

第十七駆逐隊一小隊 第三十七駆逐隊一小隊及
 戦風、シヤバ、南方海面に於て蘭國武装商
 船 (モッドヨカード號) を砲撃撃沈ス
 第十七駆逐隊一小隊、シヤバ、南方海面に於て
 米國給油船 (ベコス號) を搜索、為主隊ト
 分離、即日合同ス (敵影ヲ見ズ)
 浦風、筑摩艦長、指揮下ニ入り、シヤバ、南方

三月五日

三月六日

三月七日

海面に於て蘭國武装偵物船（エニグノ號）拿捕、為主隊ト分離之ヲ撃沈五日早朝主隊ニ合同ス

機動部隊空襲部隊「チャラチャップ」空襲敵商船一九隻撃沈軍事施設爆撃

第十七驅逐隊別動隊トシテ第二航空戦隊司令官、指揮下ニ入り主隊ト分離別動ス

第十五驅逐隊一小隊（親潮、黒潮）警戒隊指揮官、指揮下ニ入り主隊ニ合同ス

第二十七驅逐隊一小隊第一補給隊（旭東丸、日本丸、健洋丸）、警戒艦トシテ主隊ト分離「スクーリグ」灣ニ先行ス

第十七驅逐隊一小隊第三戦隊一小隊ト

三月九日
三月十日

三月十日

三月十日

共ニ「クリスマス」島ヲ砲撃陸上施設（電信所）
 棧橋油槽ヲ破壊
 第十七驅逐隊主隊ニ合同
 第十八驅逐隊一小隊「ゲンダリ」基地設置
 為第二航空戦隊ト共ニ主隊ト分離「ス
 ターリング」湾ニ先行ス
 第二十七驅逐隊一小隊「スターリング」湾着
 警戒隊（第二十七驅逐隊一小隊）「スターリ
 ング」湾着
 第二十七驅逐隊一小隊第十五驅逐隊一小隊
 警戒隊指揮官ヲ指揮下ヲ離ル
 浦風輸送任務為「バライ」ニ向ケ「スターリング」
 湾發

三月十四日

三月十五日

浦風「ベリリ」着

第十駆逐隊二小队及秋雲警戒隊指揮官

指揮下ニ入ル

三月十六日

三月十七日

第十駆逐隊二小队秋雲横須賀着

浦風「スターリング」湾ニ向ケ「ベリリ」發第十

八駆逐隊二小队秋雲「スターリング」湾ニ向ケ横

須賀發

三月十九日

三月二十日

三月二十一日

浦風「スターリング」湾着

第十駆逐隊二小队秋雲「スターリング」湾着

警戒隊ニ作戰参加、為印度洋ニ向ケ

「スターリング」湾發

二人員、現狀

(イ) 司令部

(一) 職員官氏名

5.

(一) 麾下總員數									(二) 下士官其他員數			
合	舞	萩	第三驅逐隊	秋	第十八驅逐隊	第十七驅逐隊	阿武隈	艦隊	記事	員數	兵種	合計
計	風	風	示隊	雲	隊	隊	隈	名		一五	兵科	
一	八	七	一四	七	三一	三〇	二三	士官		三	工科	
二								特准		六	主計科	
〇	六	六	一三	七	二五	二七	二一	下官		一	傭人	
一	七	七	一二	六	三三	三五	四二	兵		二	合計	
五	二	四	二一	一	六六	六七	三一	其他		五		
九	一五	一九	二九	五九	六六	六二	四	計				
五	五	六	四	九	六	二						
九												
二												
二												
四												
三	二	二	四	二	九	九	五					
六	四	四	四	三	六	八	〇					
〇	一	三	二	四	〇	〇	〇					
〇												

三、合彙報告等

機動部隊指揮官 日一七〇	機動部隊 日一六二五	機動部隊指揮官 日一二三〇	機動部隊指揮官 日一二五〇	機動部隊指揮官 日一二四〇	機動部隊指揮官 日一二三五
警戒隊指揮官艦二隻ヲ派遣シ米國給 油船「ベコス」生存者ヲ捕虜トセヨ日没時迄	補給終了後敵情ニ変化ナケルハ三日ヲ要シヤ ツ「攻撃シタル上機宜行動ス	附近「カッター」乗員ヲ捕虜トセヨ	只今「商船」ハ七千噸級ニシテ國籍ヲ示サズ 我之ヲ撃沈ス	針路速力ニテ行フ 針路ハ直ニ發進シテ撃沈セヨ艦隊ハ現 針路速力ニテ行フ	クリスマス島内商船一隻外敵見エズ
信	信	信	信	信	信

0514

機動部隊 指揮官	有明艦長 機動部隊 指揮官	警戒隊 指揮官	
機動部隊 指揮官	機動部隊 警戒隊 指揮官	警戒隊	
支援隊(三戰隊二小隊欠)ハ後方追躰中 敵輕巡ヲ撃沈セヨ	一 捕虜艦長機関長外計二十八名 二 状況左ノ通 (1) 國籍「オランダ」船名「モットヨカート」噸數 ハ千八百噸武装三吋高角砲一門機銃 二基 (2) 「チャヤツプ」發「コロンボ」向ケ航海中 被砲撃時「SOS」ヲ發信シヨリ 「チャヤツプ」港内及任務等極力訊問 中ナルモ未ダ明白ナス	十七艦一小隊ハ直ニ發動赤城ヲナニ五依ルベ コズ號生存者ヲ捕虜トシタル後同船ヲ撃沈セヨ	搜索スルモ見當ラザル時ハ歸レ敵ノ位置一六〇 赤城ノ二。五度三。埋
信 號	信 號	信 號	號

[illegible]

二日 機動部隊 機動部隊	二日 機動部隊 指揮官	一日 警戒隊 指揮官
二日 機動部隊 機動部隊	二日 機動部隊 機動部隊	一日 警戒隊 警戒隊
昨日、攻撃成果艦名命中弾数 一、ペコス 赤城二 加賀一 蒼龍三 飛龍六 二、エゾル 加賀五 蒼龍三 飛龍一 投下 弾数何れも九發	一、赤城 搜索基線二七〇度進出距離二五〇 哩南度一三度 二、加賀 搜索基線一三五度進出距離二〇〇 哩南度一七度 三、發進時刻一一〇。以後トスル外艦長所定 四、當隊飛行機投進現針路速力持續 豫定	先、商船ニ對スル砲戦ニ於テ彈藥ノ消耗者シ ク大ナルモノ又射距離過大ナルモノアリ目標ト 状況トニ應ジ艦長ハ砲戦指揮官トシテ考慮ヲ要ス 機動部隊指令第四七號 本日左ニ依リ搜索ヲ實施スベシ 搜索種別 A 法、二（四セニ）側程六〇里 一、赤城 搜索基線二七〇度進出距離二五〇 哩南度一三度 二、加賀 搜索基線一三五度進出距離二〇〇 哩南度一七度 三、發進時刻一一〇。以後トスル外艦長所定 四、當隊飛行機投進現針路速力持續 豫定
信 號	信 號	信 號

8.

二日 機動部隊 指揮官	二日 機動部隊 指揮官	二日 機動部隊 指揮官	二日 機動部隊 指揮官
二日二二〇 警戒隊	二日二二五 機動部隊	二日二四八 機動部隊	二日二四八 機動部隊
明日。七。以後艦内哨戒第二配備二十六 節即時待機最大戦速三十分間待機トナセ	補給部隊ハ一三度南一。六度東ノ地矣。 至リ待機スベシ	明日。七。以後二十四節 最大戦速三十分 間待機トナセ	「チャラチャップ」一五。度一。里附近ニ達シ 機動部隊ノ攻撃ニ策應ス 二、給油船東榮丸及早潮ハ三日正午「リ」 島ニ。四度一六。里附近ニテ主隊ニ合同 後方ヲ續行ス 三、當方面拿捕船（大部分回航員ヲ配シ軍 艦旗及對空識別標識（國旗）ヲ附ス）ハ 近次「バリ」島又ハ「マカッサル」方面ニ面 航セルニ付攻撃セザル様注意セシメ度
信 號	信 號	信 號	電

三月 警戒隊 指揮官	三月 機動隊指揮官	二月 第1航空艦隊 參謀長
三月一三〇 警戒隊	三月一三五 機動部隊	三月一四二五 聯合艦隊 參謀長
余飛行機、甲板待機トス 二十節即時待機、二十四節三十分間待機	敵ヲ見ズ、明日「JG」攻撃、豫定	第1航空艦隊機、第144番電、一三 人、二、判明セル本日、偵察状況左、通 一、艦船（兵力、地、針路、速力時刻） 大巡一、地、三、ア、針路二九。度、速力一六 節一、地、三、ア、針路二九。度、速力一六 巡一、地、三、ア、針路二九。度、速力一六 節一、地、三、ア、針路二九。度、速力一六 輕巡一、地、三、ア、針路二九。度、速力一六 速力二、地、三、ア、針路二九。度、速力一六 艦二、地、三、ア、針路二九。度、速力一六 十四節一、地、三、ア、針路二九。度、速力一六 航空兵力
信 號	信 號	無

三日 機動部隊 指揮官	
三日二〇 機動部隊	
機動部隊指令第四九號 機動部隊ハ明日一〇〇丁Gに登陸ノ概 ネニ五度二三。渠ニ達シ第一次攻撃隊ヲ發 進續イテ準備出来次第第二次攻撃隊 發進ヲチヤラチャップ破泊敵艦ヲ撃 滅セントス 飛行機隊編制第一次攻撃隊 第四編 制第二次攻撃隊 第五(欠二、二攻)編 制艦攻隊ハ嚮導機ヲ許ス限リ六機	本日ヨシヨクジャカルタ及フスマラン南西カ 殘存敵飛行機ハ陸上攻撃機及戦機 ヲ以テ主戦機上撃破同方面敵航空兵 力ハ概ネ主戦機セルモト認ム 同地域ノ飛行場ハ殆ド破壊アリ 本日認メタルジャバ西部ハ兵力大型三 小型二(内大型二五小型ハフバンドニ在リ 明日第三空襲部隊ヲ以テフバンドニ攻 撃ノ豫定

信

電

三、戦艦トシ又制空隊ハ各艦九機トシ一部
 戦艦トシ又制空隊ハ各艦九機トシ一部
 一、時開十五分トシ二、戦艦トシ又制空隊ハ各艦九機トシ一部
 日没三十分前迄第一艦隊ハ日出十五分前ヨリ日没
 艦一、收容一時刻ヲ左ノ通豫定ス
 第一直。七四五ヨリ第二直。〇九三ヨリ第三
 直。一〇〇。發艦第二次飛行機隊發艦
 後第二直ヲ收容ス第三直。一三三ヨリ
 第五直第一次飛行機隊收容前發艦
 第二次飛行機隊收容後第四直ヲ收容
 二、爾後司令官(赤城艦長)所定トス
 四、對潛警戒三戰隊司令官所定ニ依リ水偵
 ナリテ第一艦隊ニテ實施ス
 且シ海上模倣水偵揚収ニ不適際ハ
 特令ス(赤城艦長ヲ担任ス)
 五、戦艦零式水偵索敵觸接ニ備ヘ日
 出十五分前ヨリ十五分間待機トス

號

0524

四月 機動部隊 指揮官	四月 機動部隊 指揮官	
四月。九。一。	四月。七。四。五。	
三。上空第一直一持令ナケハ第一攻撃隊同時 二。攻撃隊ハ一一三。以後第一待機トナセ 一。〇。〇。天候偵察機(赤城艦爆二機)乗進 桑進久ルモトス	對空對潜機、出奔ヲ見令セ對空警戒第 二配備「C」法トナセ	六。應急出動隊 第十一攻撃隊 七。當隊明日四。〇。〇。現針路速力針路 一六。度速力二十節ニテ反轉、豫定 八月標區カ (四)艦隊中、敵機ヲ上基地飛行機 九。攻撃後、集合兵集合時刻ヲ突撃 下。令後四十五分「G」燈臺、一八。度 一。里(高度二。〇。〇。米)トス 〇。兵装ハ艦攻ハ。香陸 艦爆二十五番 陸(信管何モ甲)
信 號	信 號	

赤城艦長 四月一八四。	飛龍艦長 四月一九三。	第六第七警戒航行序列ニ於テ 三戦隊二小队ハ「ロク」ニ位置ニ占位シ「ロク」ハ 其前方ニ料ニ就ク「ト」ニ改ム	信
第一航空艦 隊司令長官 四月一三三。	旭東丸艦長 四月一三三。	攻撃隊ハ第三待機トナセ	信
赤城飛行機 四月一二三。	四月一二五	本日、攻撃ヲ明日ニ延期ス	信
赤城飛行機 四月一二三。	四月一二三。	附近天候半晴雲量八雲高二五。風向 一。五度風速一二米視界二。料スル新雲アリ	無電
赤城飛行機 四月一二三。	四月一二三。	母艦ヨリ方位三五度ニ。雲量一。雲高二。	無電
赤城飛行機 四月一二三。	四月一二三。	歸隊飛行不可能	無電
赤城飛行機 四月一二三。	四月一二三。	丁点ニ至リ待機セヨ	無電
赤城飛行機 四月一二三。	四月一二三。	附近ニ味方補給部隊アリ味方識別ニ注意セヨ	無電

機動部隊 四月 機動部隊	警戒隊 四月 指揮官	警戒隊 四月 指揮官	機動部隊 四月 機動部隊	機動部隊 四月 機動部隊
四月一三五	四月一七五 浦風 通風 走避隊司令	四月一七五 浦風 通風 走避隊司令	四月一七〇	四月一七五
五月丁巳攻撃要領左通	浦風筑摩合同同艦長指揮ヲ受ベシ	赤城タナニ依ル駆逐艦一隻浦風ニ指定ス	九三〇ノミナリシテ奔動針路三五〇度第七警戒航行序列ニ占位セヨ	武裝商船一隻(五〇〇噸級)一二度四分南一八度二五分東ニ於テ燃ハツツ漂流中ナリ人員上空ヨリ見テ筑摩及駆逐艦一隻(指揮官筑摩艦長指揮)ハ商船ヲ拿捕(運轉不能)場合ハ撃沈スベシ 主隊五月〇八〇位置十一度十二分南一八度四分東針路三五〇度速力十六節
信	信	信	信	信

Chittiman
W. H. H. H.

指揮官	五月 筑摩艦長
	五月〇七五。 機動部隊 各旗艦 (通報) 浦風駐艦長
一、赤城、艦爆二機ヲ〇七二〇丁丁、灯台ノ九五 度二六度ニ於テ飛進シ天候ヲ偵察ス 二、飛行機隊飛進時刻ヲ〇九三〇以後トス 三、機動部隊ハ第一次飛行機隊飛進後三 時間針路三五〇度速力十六節爾後針路 一三五度速力十六節 四、對空警戒攻撃隊飛進第二配備〇法 爾後第一配備〇法 五、對潜警戒機、飛進ハ特令ス 六、其他言ハ第百九號所定通	戦斗概報(三月四日) 筑摩浦風ハ南國武裝偵物船「E N G G」 N O L (船内人ナシ)ニ對シ一九五七射撃開始 射距離三杆乃至一五杆二〇四一筑摩雷撃 二〇四三之ヲ撃沈ス 沈没位置南緯一度五六二分東經一〇八度 二分糸射彈數筑摩主砲三一高角砲一 浦風主砲八糸射雷數筑摩一
號	信

<http://www.jacar.go.jp/>

14

(通報) 第...戦隊		六日、九四二 機動部隊 指揮官	六日、九四二 機動部隊 指揮官	
別動隊分離中 阿武隈、右一二。度(左一二。度)線上親潮 秋風、舞風(黒潮不知火霞)、順各艦距 離一五。	女艦警戒艦赤城不知火秋風加賀霞 舞風トシ女艦轉舵則右艦警戒艦トナル 利根ハ三二。須敵潜水艦ラシキモ、ヲ認ム 六日、對潜警戒艦ハ之ヲ実施スル、外艦長所 定ニ依リ艦隊後方ニ敵潜水艦搜索ヲナセ	分離後、對潜警戒艦ニ不時會敵警戒 待機ハ左記、外機各機動部隊命令作 二、三、所定通	一、六日、富田艦ヲ加賀トス 二、特令アル迄、空直衛機對潜警戒機ヲ 甲板待機トス	三、前路警戒、進出距離一〇。哩トシ使用機
信	信	信	信	信

五月 機動部隊 指揮官	六月一四。 伊勢第一 潜水艦	六月一。 機動部隊 指揮官	六月一。 機動部隊 指揮官	
六月三。 司令官 外	六月一五。 第二艦隊司令官 外	六月一。 機動部隊	六月一。 機動部隊	
機動部隊 六月一。 司令官 外	機動部隊 六月一。 司令官 外	一。加賀ハ三戦隊ノ後尾ニ就ケ 二。駆逐艦一隻加賀ノ後方ニ三位セヨ	一。三。別動隊補給隊解列セヨ	機動部隊 六月一。 司令官 外
機動部隊 六月一。 司令官 外	機動部隊 六月一。 司令官 外	有戒艇二隻見ユ 地矣ワシラ2針路一四。度速力一。節		機動部隊 六月一。 司令官 外
機動部隊 六月一。 司令官 外	機動部隊 六月一。 司令官 外	電	信	信
機動部隊 六月一。 司令官 外	機動部隊 六月一。 司令官 外	無	無	無

一、度三。分東經一。八度ヲ經テ濠洲沿岸 概不三。〇。里東航九日一五。〇。南緯二度 三。分東經一二。度ニ於テ別動隊ヲ合同 ス。タリリ。グ。湾ニ面航ス。別動隊ハジャバ 南方海面ヲ給油船三隻ヲ動員シ二隻ハ分 離矣。ヨリ「オニバ」海峡ヲ經テスターリン グ。湾ニ向フ	電						
別動隊合同後第十一警戒航行序列ニ於テ 左ノ通定ム	信						
一、驅逐艦、三位 親潮、黑潮、不知火、霞、順序ニD、D3、D5、D7 一、七、驅阿武隈、左側、秋風、舞風ハD10、D9 二、母艦警戒艦	號						
赤城、親潮、谷風、加賀、黑潮、浦風（母艦 轉舵側、駆逐艦警戒艦トナル）	無						
警戒隊指 揮官	七日二。五 警戒隊 （通報） 航戦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦
音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦	音二一。〇 七日二。四 機動部隊 警戒隊員乗 艦機動部隊 警戒隊員乗 艦

第六日二二〇。第二艦隊 参謀長	第六日二二〇。第二艦隊 参謀長	
第七日〇二五五。第一航空艦 隊参謀長	第七日〇二五五。第一航空艦 隊参謀長	
第七日一四二〇。第五航空 戦隊指揮官	第七日一四二〇。第五航空 戦隊指揮官	
第六日二二〇。第二艦隊 参謀長	第六日二二〇。第二艦隊 参謀長	蘭國大型武装商船一隻四日 三名二月二十七日沈没セシ。生存者ナシ 五日フナヤラヤップ。空襲所存商船、殆ト 全部大型四中型一五隻撃沈（兵舎倉庫 群高南砲台等干爆碎地上ニ飛行 艇数機ヲ認メ銃撃セモ炎上セズ小艇艇 二隻ヲ認ム内一隻大破 三被害ナシ 四後シヤソ南方及濠洲北西海面残敵 掃蕩上十日頃スターリング湾敗着 予定
第七日一四二〇。第五航空 戦隊指揮官	第七日一四二〇。第五航空 戦隊指揮官	連絡参謀ヨリ電報ニ依ルバ坂口支隊ハ伏 況ニ依リ本宿中ニシヤラヤップニ進出ス ルヤモ知ザルニ付同方面ノ攻撃ハ注意アリ度
第七日一四二〇。第五航空 戦隊指揮官	第七日一四二〇。第五航空 戦隊指揮官	第五航空戦隊機各第三五三番電
無	電	無
無	電	電

戰隊司令官	聯合艦隊司令官	第七日一〇〇。	第七日一七三。	大本營電	信課長	東港司令
總長大佐外	機動部隊指揮官	第七日四二五。	第七日一九四。	第二艦隊	各參謀長	南方部隊指揮官
瑞鶴 霞ヲ率井柱島水道着	聯合艦隊電令作第八四號	聯合艦隊電令作第八四號	聯合艦隊電令作第八四號	聯合艦隊電令作第八四號	聯合艦隊電令作第八四號	聯合艦隊電令作第八四號
電	無	無	無	無	無	無

18

9330

19

日 第三戰隊 司令官	日 警戒隊 指揮官	日 第二艦隊 參謀長	
八日三三〇 機動部隊	八日九四五 警戒隊 機動部隊	七日三二〇 南方部隊 各司令官 各參謀長	
十一航空艦隊飛行機ヨリ 國籍不明ノ潜水艦一隻基地ヨリノ方位ハ 〇度距離三五。哩針路九。度速力八節	二十節即時待機 二十六節二十分間待機トセ	三月十日附艦隊編制塔及針兵力部署更 更弁令アル場合ト雖モ南方部隊兵力部 署更更弁令アル場合ト雖モ南方部隊兵力部 配屬ハ其儘トシ現任務續行コトニ承知アリ 度	方向ニ道走セリ 三當隊ヲ引込シ進出シ未連日ノ警戒ニ依リ 洲沿岸ノ折々敵影ヲ見ルモ其他担當區域 ニ當テ敵艦艇ヲ認メズ
信 號	信 號	電 無	

日一。二。〇。 第五航空戦隊司令官 松田定次	日一。二。〇。 第五航空戦隊司令官 松田定次	日一。二。五。 土航空艦隊 飛行機	日一。二。五。 第八二四五 土航空艦隊	日一。四。五。 第八二四五 土航空艦隊司令官 松田定次	日一。四。五。 第八二四五 土航空艦隊司令官 松田定次	日一。四。五。 第八二四五 土航空艦隊司令官 松田定次	日一。四。五。 第八二四五 土航空艦隊司令官 松田定次
比敵夕ナニニ依ル國籍不明潜水艦八三。 頃左舷正横ニ。埋附近ニ近接ス。 對潜警戒ヲ嚴ニセヨ	比敵夕ナニニ依ル國籍不明潜水艦八三。 頃左舷正横ニ。埋附近ニ近接ス。 對潜警戒ヲ嚴ニセヨ	敵浮上潜水艦見ユ 基地ヨリ方位一八五度距離五。埋針路六。 度速力八節	敵浮上潜水艦見ユ 基地ヨリ方位一八五度距離五。埋針路六。 度速力八節	機密外令作第一。號ニ依リ主力部隊ニ編 入セラル可キ當隊駆逐隊ヲ六駆。二十七駆 ニ十一駆ニ指定ス	機密外令作第一。號ニ依リ主力部隊ニ編 入セラル可キ當隊駆逐隊ヲ六駆。二十七駆 ニ十一駆ニ指定ス	機密外令作第一。號ニ依リ主力部隊ニ編 入セラル可キ當隊駆逐隊ヲ六駆。二十七駆 ニ十一駆ニ指定ス	機密外令作第一。號ニ依リ主力部隊ニ編 入セラル可キ當隊駆逐隊ヲ六駆。二十七駆 ニ十一駆ニ指定ス
電無	電無	電無	電無	電無	電無	電無	電無

九月 谷風艦長	八月二〇〇〇 總參謀長	八月三〇〇〇 秋雲艦長	七月二〇三〇 第五航空隊司令官
九月一五五五 警戒隊指揮官	八月二三五〇 第二艦隊參謀長 航空隊參謀長 外	八月一九四〇 聯合艦隊航空隊司令官	八月一七四九 第一航空隊參謀長
當隊（二小隊欠）七月早朝第三戰隊二小隊ト 共ニ「クリスマス」島陸上施設（電信所、機橋、 油槽）ヲ砲撃之ヲ破壊セリ 射撃距離五。乃至三五。余射彈數谷風 三。浦風十二敵ハ白旗ヲ掲揚ス我人員 兵器異状ナシ其ハ他別動中異状ナシ	第一五軍八月一〇〇〇「ラングレン」ヲ合領セリ 大海機密第九二四番電	秋雲機密第三。七番電 ？作業地ニ向ケ余一一三。	五航空隊機密第三五七番電 當隊（龍霞陽矣欠）三月八日内地余十四日三 〇〇「スターリング」湾入泊
號	信	電	無

九月 警戒隊 指揮官	九月 第二航空戦隊 隊司令官
九月二二〇 警戒隊 通報 機動部隊 指揮官	九月二二〇 機動部隊 指揮官
一 明朝蒼龍ト共ニ基地施設ヲタメテ分離先行 セシタルル駆逐艦ヲ不知火霞ニ指定ス 二 蒼龍分離後ニ舞風ハD5ニ台位スルヲトス	別動中ノ戦果左ノ通 三月七日早朝約二十ノカノ直リ2035及1749ヲ 以テコリスミス島ヲ砲撃セリ敵ハ勿ク白 旗ヲ掲揚セリ港内敵潜水艇ヲ認メズ午後二時 ダシ海峽南方海面ニ於テ大型武装船二隻 一 万噸級ヲ爆撃撃沈セリ我ニ被害ナシ 二 七時午後ヲヤフヤツグ偵察高度六〇〇米 状況大型五中型三小型十五砲艦二飛行 艇三何モ沈没擱坐スハ突上中ニテ満足 ナルモノナシ 市外南側及西側倉庫二百数十棟以上並ニ停 車場等全部焼盡シ一部高突上中
信	信

機動部隊 指揮官	九日一四〇 参謀艦隊長	九日一五〇 参謀艦隊長
機動部隊	九日一八二〇 第一航空艦隊長	九日二三五 大本營海軍部部長 軍務局長
二、航空及警戒艦隊 先行、當隊到着迄訓練基地、整備ニ任ズベシ	一、貴部隊在泊中同泊地、警戒ハ機動部隊指揮官所定ニ依リ実施セシメラル豫定 二、現在「スターリング」灣在泊兵力、主ナルモ、左 三、愛宕 4ss 6ss 4dg? (ニ隊欠) 34g (駆逐艦三欠) 四、貴部隊「スターリング」灣錨地ハ前回通トシ 五、機動部隊「スターリング」灣ニ二隻ハ「スターリング」灣ニ	二、機動部隊一五七番電 南方部隊印度洋機動作戦ハ三月十日一應終ルスル付蘭菊牙船、通航ニ関シテ然ルベク處理ヲ得度 尚三月下旬(二十日頃)ニハ再び印度洋ニ機動戦實施、豫定ナリ
信	電	電

警隊
指揮官

警隊
(通報) 隊
機動部隊

左、要領に依り阿武隈飛行機、夜間觸接
教練及通信訓練ヲ実施ス

(一) 十日。一三。射出。六三。揚収
距離一。〇。里側程二。里。帰投後(四。〇。)
機動部隊に觸接ス(高度概ネ三。)

(二) 飛行機ヨリ末方識別航空灯ヲ點ジ時
數回點滅携帶信號灯ヲ以テ時々長
符數回

(三) 通信訓練
無線歸投訓練
進出後反轉時ヨリク式ニ依ル無線歸
號

(四) 方位測定訓練
阿武隈飛行機ハ根ニ觸接中輻射信
置、修正ヲ行ヒ方位測定用長波(七七)

	九月二二。 南方軍 總參謀長	九月二二。 機動部隊 指揮官	
	十月九。五 聯合艦隊 參謀長	十月二四。五 聯合艦隊 司令官	十月二四。五 聯合艦隊 司令官
ヲ輻射スルモノトス (一)各艦ハ阿武隈機輻射長波ノ方位測定ヲ 實施シ入港後測定成績表一通ヲ提出ス	全通機密第九三八番電 南印軍九月五。全面的無條件降伏セリ	機動部隊機密第六三番電 機動部隊機密第七號三月六日 南緯四。度。分東經一。九度四。分ニ於テ別動 隊第一航空戰隊隊員三戰隊二小隊、第十七駆 逐隊ヲ分離九日フスニ島南方ニテ合圍 十日フスターリグ島灣着ノ豫定 一主隊涼洲西北岸距岸三。哩ヲ東航敵 ヲ見ズ 二別動隊シヤリ島南方一五。哩ヲ東航 (一)七日早朝二。分ニ自リ島ヲ以テ グリムス島ヲ砲撃電信施設機橋 附近及重油槽一ヲ撃破敵ハ急ケ日	無
	電 無	無	

機動部隊 指揮官	十月二。 第二艦隊 參謀長	
機動部隊	十月二。 南方部隊 除潜水艦	
機動部隊 信令第五五號 部下駐連艦一隻ヲ十二節十五分待機トナシ對	十月二。 南方部隊 伏セリ但し海上及向地的ニ高抗戦ヲ豫 期セラルルニ付注意アリ度	旗ヲ掲揚セリ同島攻略ハ小島カヲ以テ 容易ニ實施シ得ルモト認ム 港内敵 船ヲ認メス (四) 七日「スーダ」南方カニテ一萬噸級大型武 裝商船ニテ爆撃撃沈ス (イ) 七日午後「チャラチャップ」偵察(高度六 〇米)港内商船大型五中型三小型一五 艇ニ飛行艇三全部沈没拘坐ス 尖上中市街南側東側倉庫群二百 數十棟以上ヲ三停車場等全部焼盡 一部尖上中 機動部隊第一七番電 十月二。 全面的ニ無條件降 伏セリ但し海上及向地的ニ高抗戦ヲ豫 期セラルルニ付注意アリ度 機動部隊信令第五五號 部下駐連艦一隻ヲ十二節十五分待機トナシ對 信 電 電

機動部隊 指揮官	警戒隊 指揮官	
警戒隊指揮官 兼機動隊長	警戒隊 機動部隊 指揮官	
商船ヲ調査セヨ	警戒隊は、第三五號機動部隊、第五五號に依り、對潛應急出動艦二隻、在、通定、 一、當直順序 二、交代法 三、第一日、十日、トシ、毎月、一、〇、交代 三、當直艦、ハ、當直艦ヲ、掲揚ス	潛應急出動、二、備、ハ、メ、細、目、ヲ、定、メ、報、告、ス、ベシ 二、當直、月、二十、日、頃、次、期、作、戦、為、出、動、予、定 在、泊、中、各、艦、ハ、極、力、主、機、械、走、及、肉、聯、装、置、 手、入、機、査、ヲ、定、施、ス、ベシ、但、シ 一、半、数、ハ、直、ニ、使、用、シ、得、ル、以、態、ニ、テ、ラ、ニ、ル、ヲ、要、ス 二、機、査、手、入、機、械、ハ、十、二、時、間、以、内、ニ、復、旧、シ、得、 ル、ヲ、要、ス
信 號	信 號	號

十月 飛丸艇艦長	十月 警務所指揮官	日、丸見ユ
十月 飛丸艇艦長	十月一五五。 警務所指揮官	八。度方向、商船ヲシキ橋及煤煙見ユ
十月 親潮艇艦長	十月二六三。 警務所指揮官	日、丸、確鑿ニ認めタル粒名ハ確メ得ル
十月 機動部隊 指揮官	十月一九五五 機動部隊	明十日入港直後、加賀二航戦及警戒隊、重油補給ヲ実施スベシ 使用給油艦ハ旭東丸日本丸健洋丸ト其ノ割當ハ入港令ニ定ム
十月二三。 大本宮海軍 第航空艦 部部長	十月 陸軍謀長	警戒隊ハ指揮官所定トス補給量満載 大海機密第一九〇九番電 貴機密第一三番電ニ関シ、フランスマス島ニ對スル砲撃、於テ一小隊主砲ヲ使用シアラバ當時、砲撃状況詳細至急知ラサレ度
十一月一。 第三艦隊 司令官	十一月六。五 南方部隊 除補給部隊	外機密第一六九番電 南方部隊電令第一二二號 野原一段第四期兵力中ニ於ケル南方部隊兵

九月二十五日 聯合艦隊南方部隊 司令官 指揮官	第一四〇。 第一七〇。五 第二艦隊 第一航空艦 參謀長 隊參謀長	
艦隊司令部 南方部隊指揮官ハ左ニ依リ「セロ」島方面 機動作戦ヲ実施スベシ 作戦目的「セロ」島方面敵艦隊ヲ奇襲 撃滅 作戦期日自三月下旬至四月上旬	通過後捕虜ハ機宜外界ノ見エザル箇所ニ 監視泊地ニ移乗者等ニ夜間実施 コトニ配慮アリ度 所機密第一番電 所電令作第一六號 無	カ部署ハ左ノ外持令スル迄現状ニ儘トス 三月十日附 蘭印部隊ヨリ除キ馬來 部隊ニ編入ス 馬來部隊ヨリ除キ菲島 部隊ニ編入ス 無

十日 機動部隊 指揮官	十日 機動部隊 指揮官	十日 警戒隊 指揮官	十日 警戒隊 指揮官
十日 警戒隊 指揮官 (通報) 機動部隊	十日 機動部隊 指揮官	十日 機動部隊 指揮官	十日 警戒隊
駆逐艦一隻ヲ派遣シ二五。度方向帆船ヲ 調査セシム。	赤城ハ基地ヨリ警戒機到着(又二〇。〇)近對潜 警戒第一配備ヲ実施ス。 一〇。〇以後基地警戒機到達セサルトキハ戦 隊水偵之ヲ担ヒス。	飛行機ハ約七。〇里進出時潤滑油圧降下セ ルヲ以テ引返シ不時着セリ	三、参加兵力 機動部隊ヲ基幹トスル兵力 機密警戒隊全第一一號 スクリュー艦ヲ湾内泊中各艦(隊)船体兵 器機密検査整備二周スル件 (別紙一通) 警戒隊機密第一號九 警戒隊對空測的砲戰教練実施要領 (別紙一通)
信 號	信 號	信 號	書 文

機動部 隊 指揮官 参謀長	機動部 隊 指揮官 警隊	機動部 隊 指揮官 警隊	機動部 隊 指揮官
機動部 隊 指揮官	機動部 隊 指揮官 警隊	機動部 隊 指揮官 警隊	機動部 隊 指揮官
次期作戦終了後内地ニ於テ整備セシメラ ル予定ニ就テハ其ノ際修理改造ヲ要スル 主要事項十五日迄ニ通知アリ度	驅逐隊解列ノ令アラハ左(右)驅逐隊ハ一七駆 司令(一五駆司令)所定ニ依リ主隊ノ左(右)側 ノ對潜哨戒(探信掃蕩)ニ任ジタル後一五駆 司令所定順序ニ入港セヨ	帆船ニハ土民ヲシキモノ五六十名歿殘兵ノ疑 アルモ明カナラス	「スターリング」灣ノ泊要領左ノ通定ム 一、港順序速力阿武隈一航戦三戦隊八戦 隊驅逐隊警隊原速力 二、驅逐隊警隊指揮官所定ニ依リ各隊 ヲ一スヤシナル通過終了迄灣口附近對 潜哨戒ニ掃蕩ニ任ズベシ
信 號	信 號	信 號	信 號

十五日 敵風駆逐艦長	十五日 一五駆逐隊司令
十五日二四五 警戒隊 指揮官 機動部隊 指揮官	十五日二三七 通報隊 警戒隊 指揮官 機動部隊 指揮官
三、船内ニハ武器ナシ線花少量搭載ス一〇三〇迄放セリ 二、ボークン島(バウバウ)ヨリ向島(イニ)航行中ノモノニシテ出稼人ヲシキキ一ニ三名(男)乗船シアリ 一、船名(ハニエエ)船籍不明(アンボシラカ同) 言語人全ク通ゼザルモ調査シ得タル事項左ノ通 航行許可證ヲ有ス	右側對潛掃湯要領左ノ通定ム 一、解列後阿武隈、前、約五ノ進出 二、探信速力原速、探知範囲左右五十度 三、隊形左ヨリ親潮、黒潮、秋風、舞風、順、三、横陣距離二料、親潮ハ主队航路、右五〇〇米 四、駆ハ、ハ、ハ、ハ、サ、ボ、ダ、東方三哩附近十五駆ハ、ミドルサボダ、北方附近ニ至ス、反轉探信掃湯ヲ行ヒツツ主队後尾ニ至リ警戒セヨ
號	信

機動部隊 指揮官	機動部隊 指揮官
機動部隊 警戒隊 指揮官	機動部隊 通報 第二艦隊司令長官
本日帝洋丸東榮丸ヨリ警戒隊補給ヲ実施セヨ	機動部隊指令第五七號 當部隊ノステーションに決泊中飛行機對警戒ヲ左通定ム 一、三戰隊ハ、ハースサボング、ミッドルサボングに連 結線以西ハースサボングに附近に哨戒實施 要領報告スベシ 二、對潛搜索艦ニ出入港艦船ニ對スル對潛警戒 戒ハ、戰隊一水戰、粗任トシ其、都度令ス 三、訓練中飛行機ハ、勉メテ附近海面、警戒 一、航戰ハ、毎日一五〇ヨリ約一時間(一ツケ)ニ依ル 訓練ヲ行フ 四、各戰隊(部隊)ハ、司令官(指揮官)所定ニ 依リ通話訓練ヲ實施スルコトヲ得 五、訓練中訓練電波ヲ輻射管制ヲ解ク
信	信

0551

十日 第二艦隊 司令官	十日 第二艦隊 司令官	十日 警戒隊指 揮官	
十日 第二艦隊 機動部隊	十日 機動部隊	十日 警戒隊 赤城艦長	(通報) 南洋丸 東京丸
南方部隊信令第八十三號 スナリグ湾在泊中 長短波警戒管制超 短波通常管制トナセ 七日一二五	南方部隊信令第九三號 一機動部隊当地在泊中 泊地警戒ハ機動部 隊指揮官所定ニ依リ實施スベシ 二機動部隊指揮官ハ部下司令官ヲシテ泊地 警戒ニ関シ機動部隊外 在泊駆逐隊(艦) 駆逐隊(艇)ニ在泊艦、艦載機及機動 艇ヲ指揮セシムコトヲ得	警戒隊信令第三五號ニ依ル對潜應急出 動艦及阿武隈ハ三戰隊對潜日施哨戒 機電波(七七)ノ受信ヲ行フベシ	警戒隊指揮官所定ニ依ル
信 號	信 號	信 號	號

十日 機動部隊 指揮官	十日 警戒隊指 揮官	十日一二三。 第二艦隊司令官 全長官
十一日八四。 機動部隊	十一日二二〇。 警戒隊指 揮官	十一日二二三。 南方部隊 除補給部隊 清水艦
機動部隊信令第五八號 警戒隊指揮官、十一日當地余駆逐艦一隻ヲ 以テ二航戦格乗員悉皆捕獲シ、ラオニ輸 送シ同地ニ在ル飛行機出奔シ得ルニ至ラバ、ス タリリグニ灣、収投セシムベシ	機動部隊信令第五八號ニ依ルヲバ、オ 行駆逐艦ヲ一七駆一艦ニ指定ス	二、機動第一九三番電 南方部隊電令第一三一號 一、摩耶、高雄及有明、夕暮ハ摩耶艦長之ヲ 指揮官トシ、十一日午後、スターリング灣出港、南 後南方部隊ヲ除キ、所長官所定ニ依リ 行動スベシ 三、那智ヲ南方部隊ヲ除キ同艦ハ北方部 隊指揮官所定ニ依リ行動スベシ 五、(那智欠)及山、南印部隊指揮官
信	信	無

所定ニ依リ或可達ニ各所在地ヲ出港内地ニ
 返還スベシ
 智欠ハ蘭印部隊ヲ除キ南方部隊
 本隊ニ編入シ21dgハ南方部隊ヲ除キ同時
 機以後55那智欠ハ左世保回航整備ニ
 従事スベシ
 四三月十一日附2dgヲM部隊ニ編入ス同隊
 バラング湾方面到着次第(十六日頃)6dgヲ
 南方部隊ヲ除キ6dgハ同時機以後所
 長官所定ニ依リ行動スベシ
 五1dgハバラング湾ハ輸送任務終了以後南
 方部隊ヲ除ク
 六2sd(16dgハ蘭印部隊ヲ除キ南方
 部隊ニ編入ス2sd(16dgハ蘭印部隊
 司令官所定ニ依リ或可達ニ各本籍軍
 港ニ回航整備ニ従事スベシ

電

十日二五。 聯合艦隊 司令長官	十日 聯合艦隊 參謀長	十日 南方部隊 指揮官	十日 警戒隊 指揮官
十日。四二。 各艦隊長官	十日。一。 第一艦隊 各參謀長 外	十日。四四。 尾上九 通部 二七戰司令官 八駐司令官	警戒隊
外機各第五。七番電 即電令作第九四部加賀ヲ機動部隊ヲ 除中警戒部隊ニ編入ス	第五航空戰隊ハ外機各第五。七番電ニ依ル敵 機動部隊ニ對スル作戰終了後機動部隊ニ復 歸加賀ハ東正面ノ情況ニ鑑ミタリテ 灣ニ於テ準備完成次第内地ニ歸投警戒部 隊ニ編入修理（搭載機ハ館山内地ニテ訓練待機 セメラルヲ定ス）	尾上九ハ水戰司令官ノ要求ニ依リ左ニ依リ 彈藥（十二糎七通常彈）ヲ補給スヘシ 不知火三三五、霞一二五、浦風九三三、谷風三一 四、磯風一四、	機動警戒隊命令第一三號 「タリテ」灣在泊中泊地警戒實施件（別紙通）
電 無	電 無	號 信	書 文